



TICA

—NEWS—

Vol.55 新春号
発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930-0002 富山市新富町一丁目2-3
CiCビル3F 富山市民国際交流センター内
TEL (076) 444-0642 FAX (076) 444-0643
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代

あけまして
おめでとう！



国際交流フェスティバル
in TOYAMA 2006

あけまして おめでとうございます

富山市民国際交流協会

「国際交流フェスティバル2006」は、小川 弘実行委員長の開会宣言で始まりました。今回で13回目となるフェスティバルは、国際交流・国際協力団体及び関係者やボランティア等の参加と協力により、各種の催事を実施し、外国人との交流を図るとともに、関係団体の日頃の活動状況及び情報を広く啓発することを目的に開催されました。催事などを通して、地域国際化の状況や多様な異文化に対して来場者の理解を深め交流の輪を広げました。

オープニングは、「民族衣装ファッションショー」の華やかなステージで飾りました。CiCビルの協力で、1階アトリウムに小ステージを設け、在住外国人に世界各国の民族衣装を着て出演してもらい、その民族衣装の背景・文化について簡単に紹介して、来場した市民に国際理解を深めてもらうとともにフェスティバルのオープニングの賑わいになりました。

また、野外ステージやブース、室内の各会場も大勢の人たちで賑わい、楽しく交流し親善を深めました。



外国人カラオケ大会 審査を待つ間に

10月21日(土)	10月22日(日)
開会式 太極拳(とやま日中文化交流会)、二胡演奏(歩歩の会)、マレーシア舞踊(マレーシア留学生協会) 前庭 ステージ 外国人カラオケ大会(勸とやま国際センター)、子供たちによる歌(勸ラボ国際交流センター)、中国歌(富山・中国ネットワーク)、リトルサンバ(しきのソル・ナセンテ)、中国の歌(TCA中国語クラス)、歌とサンバ(TCAポルトガル語講座)、韓国の歌(TCAハングルクラス・チングサラントガリ)、おわら踊り(越中八尾おわら道場)、韓国民謡(金泰永)、閉会式 とやまの国際交流・協力団体大集合、活動紹介、各国料理・手芸品販売	10月22日(日) 写真・パネル展示(アジアの仲間たちの会)、(国連女性開発基金富山地域委員会ユニフェム富山)、(日独友好協会) 1 階 アトリウム 3 階 交流広場 日本語の教え方デモンストレーション(日本語教師会ゆうゆう) 英語表現コンテスト(日本国際連合協会富山県本部) ユネスコ世界遺産写真展(富山ユネスコ協会)、パネル展示(富山県国際理解研究会) 日本語の教え方デモンストレーション(日本語教師会ゆうゆう) 英語表現コンテスト(日本国際連合協会富山県本部) ユネスコ世界遺産写真展(富山ユネスコ協会)、パネル展示(富山県国際理解研究会) 世界とのふれあい、中国語コミュニケーションコース、英語コミュニケーションコース、メキシコ探訪(富山国際大学国際教養学部) 青年海外協力隊帰国報告会(青年海外協力隊富山県OB会)、ワーキングホリデー説明会(勸日本ワーキング・ホリデー協会) 音楽・映像室 世界自然・野生生物映像祭上映会(NPO法人地球映像ネットワーク)、日豪交流年ビデオ上映と留学相談(富山日豪ニュージーランド協会) 会議室(1・2) ゲーム・クイズコーナー、もっと知ろう世界の国(カナダ、フィリピン、ブラジル) 写真・パネル展示、活動紹介(UNEP NOWPAP RCU 富山事務所)、(勸ラボ国際交流センター 北陸地域会) 学習室(3) 交流ルーム“休みに来られ!” —ともだちの輪— 聞きたいなあ! 話してみよう!
とやま国際草の根交流賞授賞式 国際協力県民シンポジウム(勸とやま国際センター) 「約束〜戦場ジャーナリスト橋田信介とみるイラク〜」講師: 橋田幸子氏 5 階 多目的ホール	国際交流フェスティバル in TOYAMA 2006



日本語の教え方デモンストレーション



ブースで交流



日本文化体験コーナー フラワーアレンジメント



日本文化体験コーナー 茶道

会場: CiCビル内/CiC前広場

10月21日(土)PM1:00~PM 5:00 22日(日)AM10:00~PM4:00

主催 国際交流フェスティバル2006実行委員会
共催 JICA北陸/(財)とやま国際センター/ 富山市民国際交流協会
後援 富山県/ 富山市

参加団体名

アジア女性支援の共
アジアの仲間たちの会
ウィメンズ・ウィング・トヤマ
言語交流研究所ヒップファミリークラブ
国際ソロプチミスト富山
国連女性開発基金富山地域委員会ユニフェム富山
JICA北陸
青年海外協力隊富山県OB会
NPO法人地球映像ネットワーク
チングサラントガリ
富山外国語専門学校
富山県国際理解研究会
富山県青年国際交流機構
富山県日韓親善協会
(財)とやま国際センター
富山国際大学国際教養学部
とやま国際理解教育研究会
富山市民国際交流協会
富山・中国ネットワーク
富山日豪ニュージーランド協会
とやま日中文化交流会
富山ベンチャークラブ
富山ユネスコ協会
日独友好協会
日本語教師会ゆうゆう
日本国際連合協会富山県本部
(社)日本ワーキング・ホリデー協会
ふおるくらーれ
歩歩の会
マレーシア留学生協会
UNEP NOWPAP RCU 富山事務所
(財)ラボ国際交流センター 北陸地域会

お問合せ: 国際交流フェスティバル2006実行委員会事務局
富山市新富町1-2-3 CiCビル3階 (富山駅前)
Tel 076-444-0642



… 外国の子どもたちの支援に取り組む「ばら教室KANI」 岐阜・可児市国際交流協会を訪ねる …

富山に在住する外国人が増加する中で「外国籍の子どもたち支援のために、今できることは…」を模索するため「不就学ゼロ」をめざす先進協会を訪ねました。

可児市国際交流協会では「国際化が日常化された地域社会の実現をめざして、／」を絶えず忘れることなく事業活動を推進しています。特に将来を担う子どもたちの教育の取り組みとして、可児市の小・中学校に在籍しているが日本語がわからない、初めて日本の学校に通うなど多くの課題を抱える外国の子ども達が生き生きと成長し、安心して学習できる場として「ばら教室KANI」が2005年4月6日に開設されました。

「ばら教室KANI」は、可児市教育委員会学校教育課が管轄し、教室運営を行い、主に初期的な日本語の学習をはじめ、日本の学校のルールなどを指導しています。

当協会でも日本語教室などいろいろな事業活動を行っていますが、ボランティアで支えられています。可児市では、市民・企業・行政が一体となって取り組まれていることなど、参考になることが多く、大変有意義な研修でした。研修旅行には、あいにくの天候の中、早朝の出発でしたが11名が参加しました。



国内研修に参加して

外国人児童不就学ゼロをめざす取り組み！

協会会員 島野 幸夫

“外国人の子供が安心して学習できるまちづくり” 不就学ゼロをめざして「協働」から「連携」に取り組んでいる岐阜県可児市国際交流協会への視察に参加いたしました。



約15人に1人が外国人住民である現状の中で可児市国際交流協会では、可児市に暮らすすべての子供達が健やかに育ち、安心して生活できるまちづくりを推進するために、行政・民間団体・大学研究者による「協働研究」を実施しました。可児市に居住する就学年齢期(小1～中3)の全ての外国人の子供を対象に、直接家庭を訪問して詳細に就学実態を把握し、2005年4月より不就学ゼロをめざした取り組み「外国人児童生徒の学習保障事業」を開始しました。中村裕事務局長から「連携」をキーワードに、問題解決に向けた具体的な取り組みが行われていること等の説明を聞き、意見交換を行った後に「ばら教室KANI」を視察しました。

この教室は、初めて日本の学校に就学する子供のための事前学習教室で、指導は常勤スタッフ3人と交流協会の派遣スタッフとで協働して行われており、ブラジル出身の方もおられて、母語を交えて教える場面も見受けられ、子供達もいきいきと輝いて勉強している姿に接し感動しました。

時間が少なかったのはちょっと残念でしたが、この研修を糧として、これからも国際交流に微力ながら貢献できればと存じます。(島野さんは、当協会日本語クラスでボランティア活躍中です)

総務企画委員会

語学(災害)ボランティア養成講座(中国語)修了

この講座は災害発生時、避難所での生活、災害復興時に、中国語で対応できるボランティアを養成するために6月から12月まで全10回のカリキュラムで行われました。

9月30日には、婦中スポーツプラザで行われた「富山市総合防災訓練」に、昨年講座を修了した英語ボランティアの方々と当講座学習者12名、中国人8名が参加し、大地震が発生したという想定で、外国人被災者の避難所の入所手続きやアナウンス(炊き出しや飲料水等の配付)、行方不明者の搜索、救助・救出、負傷者の医療機関への送致などの模擬訓練をしました。それまで講座では万一を想定したテーマを元に通訳練習を多く行ってきたため、



災害が起こった時を想定して

練習内容を訓練で実践するという貴重な体験になりました。

講座開催期間中、日本でも台風、地震、竜巻、大雨などの自然災害が発生しましたが、富山県では甚大な被害はありませんでした。

今後、万一被災し

た時、日本人と外国人がお互い助けあえることを期待して講座は終了しました。

12月2日、修了式では受講者に修了証が渡されました。



富山市総合防災訓練に参加して

養成講座日程表

回	開講日	担当講師	内 容
1	6月10日		開講式 オリエンテーション 講演：梅田純子氏(旬チャイナネットワーク代表取締役)
2	6月24日	湯 麗敏	災害が起こる前に 富山の災害について(地震、台風、その他)
3	7月1日		災害への備え、日頃の心構え
4	7月8日	応 広建	災害が起こった時 最初の5分間の対応
5	8月26日		避難所の様子(プライバシー、どんな事が問題か、 集団生活について)
6	9月9日	銭 輝	災害からの回復期 アナウンス通訳(現状情報、復旧の状態)
7	9月23日		相談事例、その他(安否確認、ライフライン問い合わせ等)
8	9月30日		富山市総合防災訓練
9	10月14日	胡 莉珍	災害が起こった時 避難所において
10	11月18日		災害からの回復期 医療通訳
11	12月2日		ロールプレイング 修了式

平成19年度は、語学(災害)ボランティア養成講座(ハングル)を予定しています。

委員会報告

ディスカバー富山

「路線バスを利用して出かけよう!」という初めての試みだったのに朝からどしゃ降りの雨に強い風という天候となり、それでも33名(内外国人11名)の参加がありました。

例年好評の長慶寺での座禅では、深遠なる東洋哲学に触れ、民俗民芸村を訪ねて伝統文化に興味を示しました。民俗民芸村の会議室でお弁当を食べた後のディスカッションは、大変に盛り上がり、和気藹藹で交流センターに戻って、文化交流委員会が催す「音楽鑑賞弾語り」に参加して楽しみました。



10月7日(土) 長慶寺にて

多国言語文化交流クラス

オーストリア&ドイツ語

11月4日

講師 エーファ カペラ氏(富山大学人文学部ドイツ語講師)

オーストリアは、ヨーロッパのほぼ中央に位置し、北海道と同じ位の大きさを北海道のような気候を想像したらいいでしょう。そして、山や丘陵地、谷、川、湖など豊かな自然がいっぱいで、歴史と文化の宝庫、そんな魅惑的な国です。…と。



エーファさんは、モーツァルトの生誕地ザルツブルグの出身です。参加者からは質問も多く、ゴシックやバロック建築のこと、EUやユーロについてのこと、お菓子や料理のことなどについて丁寧に説明してもらい、モーツァルトの曲を聞いたり、異国文化の素晴らしさに触れました。

ネパール&ネパール語

12月2日

講師 プナン ガウチャン氏(富山大学応用薬理学研究室博士課程)

ヒマラヤ連邦の麓に位置するネパールは、野生の動植物が今もたくさん残っているととても美しい国です。北海道の約2倍の面積に人口は2,700万人、60以上の民族が住み、70以上の言語が話されていますが公用語はネパール語です。しかし、多くの人は英語を話します。



ネパールには便利この上ない挨拶言葉があります。それは『ナマステ』と云う言葉です。この言葉一つが、「お早ようございます」、「こんにちは」、「こんばんは」、「おやすみなさい」、「はじめまして」、「さようなら」、「御免下さい」、「バイバイ」など、色々な意味をもつのです。つまり自分が「ナマステ」と云えば、そのシーンに合わせて、相手は「今この人は『こんにちは』と言っているのだな?」とか、「『ご機嫌よう!』と言っているのだな?」などと、すぐに理解して貰えると云う訳です。

では、皆様「ナマステ」。



ユニークな形のネパールの国旗

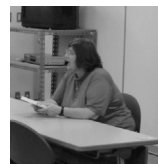
英語スピーチと討論の会(ESD)

10月例会

10月10日 18:30~20:00

テーマ 「About the Multilingual Matters」
講師 Ester Wahlerluts 氏

幼稚園で週に1回英語を教えている。一番のメリットは、子供達が外国人と話すことを怖がらなくなること。小学校でも教えているが、文法などは教えず英語のサウンドを重点的に練習させている。というのも小学校の段階ではまず、日本語の文法・構造をしっかり学ぶことが大事だと思うから…と。



ウェーラーさんは、ドイツ語が母国語で学校で英語を正式に学んだ期間は非常に短い、ホテルなどでの仕事を通じて実際に使っていくことで英語を学んだそうです。「とにかく語学は楽しみながら学んでいくことが一番大事です」と締めくくられました。

11月例会

11月14日 18:30~20:00

テーマ 「Interpreting the American Midterm Elections」
スピーカー Daniel Rainer 氏(大門高校ALT)

11月7日の米国の中間選挙では、イラク戦争の大義に疑問を呈し、共和党議員の賄賂やE-mailスキャンダルに嫌気がさした米国民が民主党を選んだ。しかし、すぐにアメリカ社会の劇的な変化はないと思う。2008年の大統領選挙には、ヒラリー・クリントン氏やコンドレサ・ライス氏などの名前もあがったり、今までにない候補者の構成となっているが、それぞれに強みと弱みがあって結果の予断は許さないのでは…と。



スピーチ後、ダニエル・レイナーさんは、参加した会員の方々の予想以上の高い英語力に驚いたと、話しておられました。

12月例会

12月12日 18:30~20:00

テーマ 「Travels through Photograph」
スピーカー Owen Murray 氏(上滝中学校ALT)

これらの講話・座談・討論などすべて英語で行なわれました。

国際教養委員会

海外研修「中国秦皇島市親善訪問」報告展

昨年8月27日~9月3日に実施した平成18年度海外研修「中国秦皇島市親善訪問」の報告展が11月13日(月)~18日(土)までCiC 3F交流広場で開催されました。

今年は、富山市と秦皇島市との友好都市締結25周年を記念して訪問しました。

会場では表敬訪問や交流会、視察先や秦皇島市の町の様子、また、世界自然遺産…黄龍・九寨溝…と成都などを訪ねた美しい自然の写真を展示してDVDを流しました。また、報告書も作成しました。



音楽鑑賞弾語り



10月7日 CiC音楽室

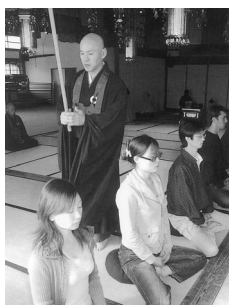
初めての催物でしたが外国人と会員ら38名の参加があつて盛会でした。なつかしい日本の歌（七つの子、夏は来ぬ、小さい秋見つけたなど）や、おなじみのミュージカルの曲（キャッツ、星に願いをなど）

全部で15曲の演奏を楽しんだ後に、全員で「赤とんぼ」を歌いました。日本人の心に染みる歌ですが外国の人たちにはどのように伝わったでしょうか。

中野さんの家族は、海外で暮した経験があり「音楽は国境を越える…」と言われますが、ほんとうに言葉が解らなくても音楽はたまたま居合わせた人と人の心を繋ぎます…」と。

ピアノ演奏 中野順子さん 二重唱 中野沙枝子さん

日本伝統文化の紹介「座禅」



11月5日 海岸寺

米国、フランス、コンゴ、ネパール、中国など富山在住の外国人21名が参加しました。

住職から座禅について姿勢や呼吸法などの指導も受けて30分に2回の座禅を組みました。外界のもの音ひとつ聞こえない本堂には、永平寺の暁天の座禅の際に使われる鐘、太鼓、版本や大梵鐘などの鳴らし物の響きが

流れるなか参加者は静座して精神を集中させる貴重な体験をしました。

もっと知ろう世界の街「ネパール」

12月17日 当センター

講師 ダルマ・ラマ氏（曼荼羅絵師）
プラ・シェルパ氏（ヒマラヤ山脈山岳ガイド）

料理教室「日本料理」



11月15日
とやましちゅうおうけんふくし
富山市中央保健福祉センター2F
栄養指導教室

メニュー：ちらし寿司、おすまし、にんじんとほうれん草の白あえ、白玉団子

料理実習を始める前に、保健福祉センターの栄養士さんから「生活習慣病予防」について講義を受けて減塩に心掛けることを学びました。

今回は、だしの取り方の基本とすり鉢を使ってゴマを搗るなど少し手間をかける調理方法を中心に習いました。味噌汁は、いつも作っているがすまし汁は初めて…という参加者もありました。彩りよく飾られ、お祝いの時やおもてなしにも向くような出来上がりに感激！ 中国、イギリスなど8ヶ国からの外国人の参加（22名）して料理教室を通して交流しました。

年忘れファミリーパーティー



12月24日
当センター

お正月も近いということで「ふくわらい」をゲーム式にして遊びました。顔が出来上がるたびに、見ている人から笑いがおきました。

タオルを使って簡単にできる犬の人形を作ったりして、一年のしめくくりを楽しみました。

文化交流委員会

ボランティア委員会

姉妹都市ダーラムから…

ダーラム市の姉妹都市委員長メービス・メイヤーさんから「公式な交流を目的とするものではありませんが、私たちの市民が姉妹都市富山で楽しい時が過ごせることをうれしく思います」というメールが届きました。そして、シンガーソングライターの肩書を持つノースカロライナ州大気保全局に勤務するマーク・グリアリン・スミス氏が11月2日～6日まで富山市を訪問されました。会員宅やお寺でのホームステイ、立山・能登めぐり、座禅（当協会の行事）体験などお世話しながら交流しました。

マークさんは、父親が教会の牧師だったことから子ども時代（約14年）を東京で過ごし、アメリカンスクールに通い、後にデューク大学を卒業したことなど話されました。



二上山にて

姉妹友好都市委員会

・・・ ありがとうございます ・・・

12月をもちまして結婚退職することになりましたが、長い間皆さんには大変お世話になり、本当にありがとうございました。振り返ると、勤め始めた頃のことを鮮やかに思い出されます。市立図書館の1階の、少し薄暗いけれどすごく温かい雰囲気の事務所で、私の国際交流協会での仕事は始まりました。あれからもう8年が過ぎました。

私の専門はフランス語でしたが、協会に勤めていろいろな方々と出会うことができ、外国人、日本人に関係なく、心のつながった交流を私自身も体験することができました。在住外国人の方の相談にのっていく中で、彼らの立場にたって考えることもできるようになってきました。たまたま私もいわゆる「在住外国人」と結婚したので、このような経験もこれからの生活に活かされていくのではないかと思います。中国系マレーシア人の彼は当協会の活動にも参加していたこともあり、公私共につきあいは長いのですが、「外国人と文化や習慣の違いをこえて、相互に理解しあう努力をする」ということは今の多文化共生社会ではよく言われることながら、毎日の生活の中でどんなときも心にその言葉をおいて実行するということは、本当に大変なことだと身にしみて感じております。でも、お互いのギャップも新たな発見として前向きにとらえていきたいです。

ここに勤めていて感じたのですが、ボランティアの皆さんはお忙しい方が多いのに、遠くから足を運んで、貴重な時間を割いて精力的に活動されていらっしゃいます。私も協会での仕事と平行して、日本語教育という新しい分野でボランティアをさせてもらったので、今後の新しい生活の中でもこういった活動は続けていければと思っています。1月中旬には引っ越しする予定ですが、また時々は戻ってこれると思いますのでそのときは温かく迎えてやってくださいね！

最後にこの場をお借りして、今までお世話になりました皆様に深く感謝申し上げます。そして、富山市民国際交流協会のさらなる発展と、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

当協会事務局職員 酒井 千絵子



お知らせ

お申し込み・お問合せは当協会まで
TEL 076(444)0642 FAX 076(444)0643

行 事	日 時	と ころ	担当委員会	参加費	対 象
英語スピーチと討論の会 例会	1月9日(火) 18:30~20:00	当センター	国際教養	無料	会員
新春国際交流のつどい2007	1月13日(土) 14:00~16:00	CiC多目的ホール	合 同	外国人500円 日本人1,500円	会員・外国人
スポーツ交流会 太極拳	1月28日(日) 13:30~15:00	当センター	文化交流	無料	外国人
多国言語文化交流クラス「セネガル&オルブ語」	2月3日(土) 13:30~15:00	当センター	国際教養	200円	会員
富山大学留学生ホームビジット	2月10日(土) 10:00~17:00	—	ボランティア	—	—
英語スピーチと討論の会 例会	2月13日(火) 18:30~20:00	当センター	国際教養	無料	会員
料理教室(外国料理)	2月15日(木) 10:30~13:30	富山市民中央保健福祉センター	ボランティア	300円	外国人
華道	2月18日(日) 13:30~15:00	当センター	文化交流	無料	外国人
国際交流TCAカレッジ 「富山に住む外国籍の子どもたち」 子どもの日本語グループ代表 米田哲雄氏	2月27日(火) 18:30~20:00	当センター	総務企画	無料	会員・一般
多国言語文化交流クラス「オランダ&オランダ語」	3月3日(土) 13:30~15:00	当センター	国際教養	200円	会員
中国語会話集中講座	3月 未定	当センター	国際教養		会員・一般
茶道	3月11日(日) 13:30~15:00	当センター	文化交流	無料	外国人

ばら 月季の会

…この日が待ちどおしいです！…



「你好！」「コンニチハ！」

「毎月一度のこの日は、楽しみにして待ちどおしいです」と、みんながやって来ます。

この会は、富山在住の中国の人たちと“気軽に集まって本音で何

でも話し合えよう”と昨年の4月から始めました。「お里帰りの気持ちで月季の会に出ています」「中国語で話すとほっとしますね」「友達が出来て良かったです」などの感想を聞いてとてもうれしく思います。

これからも皆さんの力を借りて頑張ろうと思っています。

当協会外国人相談員 銭 輝

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「ダブルリミテット」…ってなに？ 母国語も日本語も中途半端な子どもたち、外国人労働者などを両親に持つ幼い時に来日、日本で生れた子どもたちが増えています。授業についていけないことから学校に行かなくなる「不就学」が全国で問題となっています。

仕事が忙しい両親と母国語で話す時間が少ない・母国語を忘れてしまう・母国語も不十分となる。日本語は、会話には困らないが物事をしっかり考えられない・物事を順序立てて組み立てられない・理解できない。など2ヶ国語とも不十分なまま成長していきます。外国人の子どもたちの問題は、実は日本の社会の問題であることを知らなければなりません。

昨年、国内研修で可見市を訪ね、外国人児童・生徒に学校へ通う前に日本語や生活習慣を教える施設「ばら教室KANI」を視察しました。

ここに通室する子どもにとっても保護者にとっても初めての「日本の学校」です。「日本の学校の楽しさ」を伝えることを大切にしています。子どもたちは、徒歩、自転車、バスで通室し元気に皆勤です。少しずつ日本食も食べられるようになり、お箸も上手に使えるようになって「ばら教室KANI」を修了し、各在籍校に戻って学習を継続する子どもたちの瞳はとても輝いています…と。

いつもお互い様を合い言葉に、国籍や民俗・文化の違いがあってもお互いを解り合って一緒に生きたいですね。

広報委員長 岡田昌代